

# 寺子屋とその師匠

史学班（徳島史学会） 稲 飯 幸 生<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

江戸時代の庶民の教育については私塾と寺子屋があったが、その区別ははっきりしたものではなく、その設置や指導内容についても藩はなにも制限せず、監督もしなかった。師匠の身分についても、夫役免除などの優遇策もなく、住民の自主的な判断により、自然発生的に寺子屋が置かれた。住民自身も子どもを教育するという意欲に乏しく、時間に余裕があり、経済的な負担に耐えられると考えられた場合に、子どもを寺子屋に通わせた。通う期間も、3年も通わせれば村内では上の部にはいると言われ、とくに女子については「女兒に手習いさせるのは、雨夜の星のごとく寥々たるものである」『辻風土記』（175頁）といわれ、裁縫の師匠に手縫を習わせるのがよい方であった。子どもは労働力の一部として、親は農作業の手伝いを期待したのである。

## 2. 町内の旧村の人口構成と寺子屋の設立

相生町は藩制時代には多くの小さな村に分かれており、『阿波志』には各村の戸数・人口の記載がある。また、明治20年刊行の『地方行政区画便覧』によると、村々の実態が記載されている。寺子屋とその師匠については、『相生町誌』（88頁～89頁）・『相生村史』（1584頁～1586頁）、『日野谷村史』（489頁～492頁）などの教育・文化の項を参考にした。それらによると、江戸末期から明治初期にかけて師匠と名付けられた人々は27名が数えられる。旧各村の戸数・人口とそこに設立された寺子屋をみてみた。

なお、参考として『阿波志』の戸数・人口の数字も掲げたが、村によっては数字が欠落しているものがあり、やや正確さを欠く。

### 1) 旧相生村

たにうちむら ひらのむら うまじむら えのきだにむら いのたにむら  
谷内村・平野村・馬路村・榎谷村・井谷村

戸長役場は谷内村に設置 戸数166 口数899

にしのうちむら うけのたにむら あいなむら たけがたにむら  
西納村・請ノ谷村・相名村・内山村・竹ヶ谷村

戸長役場は西納村に設置 戸数162 口数833

合計 戸数328 口数1732

○『阿波志』に記載された戸数と人口 戸数248 口数1097

### 1) 神山町下分

この二つのグループの10か村が明治22年〔1889〕以後は相生村となる。この地域の寺子屋師匠としては次の人が挙げられる。

- ・生田 周伯（谷内）明治19年〔1886〕没

医師の家系である。文化8年「谷内村棟付帳」によると、周伯の祖父玄立が徳島城下の医師津永昌永について医術を修得し、帰村して開業、その子玄隆・孫周伯が後を継いだとある。周伯は寺子屋を開いていたがその死後絶家となった。

- ・<sup>かんがわ</sup>勘川 七郎（平野）明治16年〔1883〕没

勘川家の墓地に筆子塚がある。夫婦墓で正面には七郎（明治16年8月27日没、92歳）、七郎妻フミ（明治14年〔1881〕9月29日没、82歳）とあり、世話人・寺子合わせて25人の刻名がある。寺子の出身地には地元の平野村のほか、馬路村・榎谷村・谷内村、阿井村（鷺敷町）・請ノ谷村などの地名がある。

- ・<sup>とんだ</sup>福当多三郎（内山）明治21年〔1888〕

福当家の墓地に筆子塚といえる墓が残ってる。側面に刻んだ寺子の出身地をみると、竹ヶ谷村・西納村・相名村・榎谷村、福原村・八重地村（上勝町）、棚野村（勝浦町）などがある。内山地域は美杉峠・<sup>かにがとうげ</sup>蟹ヶ峠を越えて勝浦郡に隣接しているため、縁組も勝浦郡との間に頻繁に行なわれている。そのような関係で寺子も勝浦郡から来ていたのであろう。

- ・<sup>おおくさ</sup>大久佐喜代次（平野）天保11年〔1840〕没。

前川虎次郎とともに相生町では古い寺子屋師匠である。菩提寺の正光寺に弟子が建てた立派な墓がある。戒名は「好学憲礼清信士」という。墓の側面には「世の芸は花にものこす春の雲」の句が刻まれている。

- ・西 宇平（榎谷）明治41年〔1908〕没。

榎谷村の伍長（村長格）を務めた。俳句を好んだという。

- ・勝太郎（内山）生没年未詳

『相生村史』によると福原（上勝町）の生まれで、同地の吉田家で月に5日宛、年に60日ぐらい近所の子ども達6人ほどを教えていたという。

・相生地域の子どものなかには、<sup>にう</sup>仁宇（鷺敷町）の市蔵という師匠のもとに通っていた者もあったという。

## 2) <sup>のぶの</sup>旧延野村

<sup>あそう</sup>朝生村・<sup>あいかわ</sup>鮎川村・<sup>うしわ</sup>牛輪村・<sup>いりの</sup>入野村

戸長役場は鮎川村に設置 戸数120 口数640

延野村・吉野村・<sup>やなのうえ</sup>築ノ上村・<sup>おんどり</sup>雄村・<sup>はち</sup>鉢村

戸長役場は延野村に設置 戸数259 口数1481

合計	戸数379	口数2121
----	-------	--------

○『阿波志』に記載された戸数と人口	戸数135	口数712
-------------------	-------	-------

このグループは9か村あり、後に延野村となる。この地域の寺子屋師匠は次の人が挙げられる。

・幸田安太郎（鮎川）没年不詳

・矢野 官蔵（朝生）慶應2年〔1866〕没

・〃 谷蔵（〃）明治25年〔1892〕没

官蔵の養子が谷蔵である。国道195号線の傍らに居宅があり、鮎川村・朝生村・築ノ上村の子どもたちを教えていた。前庭に寺子の立てた筆子塚があったが、いまではまとめられている。ただ、台石が残っており、それには寺子8名の名が刻まれている。朝生近辺の子どもが多い。

・鈴木 良平（吉野）明治24年〔1891〕没

学制頒布後に雄小学校の教員になっている。

・三輪 左一（延野）明治20年〔1887〕没

三輪家については親族の中村竹雄氏宅（延野）に関係資料が残されている。文化年間からの系図があり、それによると左一は文政8年（1825）の生まれで、父は権兵衛、母はダイといった。明治8年（1875）延野小学校創立にともない校長となっている。戒名は「教明寿照居士」である。

### 3) 旧日野谷村

日浦村・<sup>はなせ</sup>花瀬村・<sup>かげだに</sup>蔭谷村・<sup>ほうの</sup>朴野村・<sup>よこいし</sup>横石村・大久保村

戸長役場は朴野村に設置	6ヶ村の戸数205	口数1233
-------------	-----------	--------

○『阿波志』に記載された戸数と人口	戸数553	口数2419
-------------------	-------	--------

このグループは後に日野谷村となった。この地域の寺子屋師匠は次の人々である。

・浅蔵（蔭谷）没年不詳。

<sup>おん</sup>音谷（上那賀町）より週に3日ほど来て7人位の子どものみを教えた。

・森 周慶（朴野・蔭谷）明治20年（1887）没

『日本教育史資料』によると、名称（仙沢堂）、学科（読書・算術・習字）、旧管轄（徳島領）、所在地（荒田野村）、開業（天保10年）、廃業（明治5年）、男女教師（男1）、男女生徒（男20）、調査年代（明治5年）、身分（医）となっている。

周慶は<sup>あらたの</sup>荒田野村で教える傍ら、本町の朴野・蔭谷方面で子供たちを教えた。後に日野谷小学校の創立に伴い、そこの教師を勤めた。

森周慶翁頌徳碑（阿南市新野西小学校校庭）によると、周慶は日和佐町に生まれ、後に森氏の養子になっている。海部郡の村々とこの地域は峠越えの行き来が頻繁で

あり、婚姻関係がさかんに行なわれていた。周慶の母親も宮浜村（上那賀町）から日和佐町へ縁付いているので、その関係から周慶自身も相生町へ入るようになったのである。長崎に出て医術を学び、帰郷して寺子屋を開いたという。森家の墓地には門弟14名の氏名が刻まれている筆子塚がある。

・保田 岑蔵（横石）明治19年〔1886〕没

『日本教育史資料』に記載されている寺子屋である。それには学科（読書・算術・習字）、旧管轄（徳島領）、所在地（横石村）、開業（慶應元年）、廃業（記録なし）、男女教師（男1）、男女生徒（男10・女2）、調査年代（明治5年）、身分（農）、習字氏名（保田岑蔵）とある。

保田家は家屋を立て替えたほか、墓もまとめられているが、菩提寺の延命寺墓地には新しい累代墓の後ろに、師匠夫婦の戒名が刻まれた筆子塚が残っている。

・前川虎次郎〔初代〕（鎌瀬）天保10年〔1839〕没

相生町内の師匠では最も古く、他の師匠のなかには虎次郎に教えを受けたものも多いといわれている。通称「虎お師匠」と呼ばれ、能筆の手習いの手本などが現在の前川家に遺品として残っている。

鎌瀬の松寿庵の境内にある墓碑は夫婦墓で、普賢菩薩を戴いた立派なものであるが、大石に刻まれた世話人・弟子の出身地をみると白ヶ谷村（上那賀町）・日浦村・舞ヶ谷・大久保村・花瀬村・鉢村・入野村（相生町）、百合村（鷺敷町）・長安村・音谷村（上那賀町）などがあり、旧日野谷村以外にも寺子がいた。

虎次郎は由子軒有楽と称して俳句も嗜み、また、浄瑠璃をも語る村内の指導的な文化人であった。

・前川寿三郎〔二代〕嘉永2年〔1849〕没

・前川 要助（要五郎）〔三代〕明治21年〔1888〕没

この二人とも虎次郎の教えを受け継ぎ寺子屋師匠を務めた。ともに俳句を詠み浄瑠璃を語った。

・前川 友吉（鎌瀬）明治41年〔1908〕没

松寿庵の前川虎次郎の墓の傍らに墓碑がある。台石に刻まれた寺子の出身地には赤松村（日和佐町）・木岐村（由岐町）・長安村（上那賀町）などがあり、また、町内でも遠隔地の竹ヶ谷村にも寺子がおり、広い範囲の寺子があった。これらの遠隔地の寺子は、親類縁者をたよって泊まり込みで師匠について手習いしたのであろう。日浦・花瀬のほか、現上那賀川町の長安・音谷・小浜・白ヶ谷地域まで巡回指導に行ったという。友吉は弥生庵可大と称して俳句・短歌を嗜み、浄瑠璃も語った。墓碑には自筆の辞世の歌が刻まれている。

- ・ 医師 要節（日浦）桜谷（上那賀町）より来て教えた。没年不詳。
- ・ 大西 吉蔵（ヱ）元治元年〔1864〕没  
     朴野村の中川家から養子に来て師匠を務めた。
- ・ 岸 賀蔵（花瀬）明治26年〔1893〕没
- ・ 西田儀十郎（大久保）慶應3年〔1867〕没
- ・ ヱ 莊太郎（ヱ）明治13年〔1880〕没

『日本教育史資料』に記載されている寺子屋である。これには学科（読書・算術・習字）、所在地（大久保村）、開業（慶應元年）、廃業（記録なし）、男女教師（男1）、男女生徒（男15、女5）、調査年代（明治5年）、身分（農）、氏名（西田羽衣）と記載されている。

儀十郎は初代羽衣と号し、莊太郎は2代目羽衣を継承した。羽衣とは儀十郎が江戸相撲をとっていた時の四股名であるという。地元以外にも広い土地を持ち有数の資産家でもあった。

- ・ 西岡猪五郎（大久保）明治13年〔1880〕没
- ・ 安川萩郎助（横石）安政3年〔1856〕没
- ・ ヱ 七郎兵衛（横石）生没年未詳
- ・ ヱ 理久（利久）（横石）天保5年（1834）生。没年未詳

『日本教育史資料』による寺子屋師匠の身分としては、士・農・平民・医・神官・僧・商・修験・浪人などがあるが、相生町では農民の師匠がほとんどで、そのほかには医師が2名（森周慶・浅蔵）あり、この二人は他村より教授に来ていた。

師匠のなかには何代にもわたって務めた家系がある。

朝生村	矢野官蔵	———	谷蔵
横石村	前川虎次郎	———	寿三郎
横石村	安川萩郎助	———	七郎兵衛
大久保村	西田儀十郎	———	（初代羽衣
			———
			莊太郎
			<2代羽衣>）

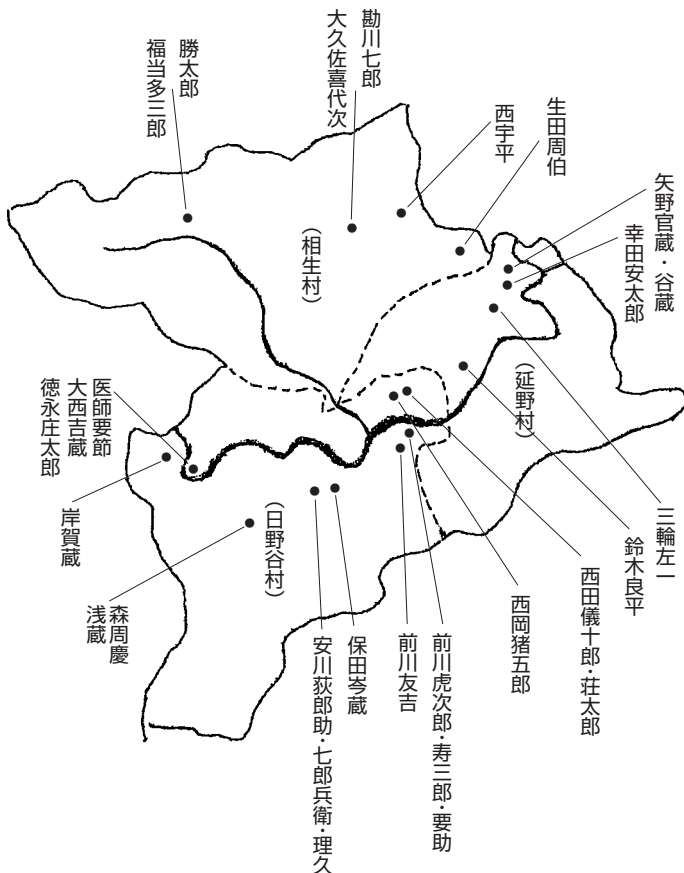
### 3. おわりに——寺子屋から学校へ

明治5年の学制頒布により寺子屋はなくなり、以後、各地に学校が設立されるのであるが、各村の実状としては依然として寺子屋が存続された。県内各市町村史・学校沿革史などの記述によれば、これは各村の学校設立の事業が村予算の窮乏から思うように進捗せず、学校の内容も住民に充分理解されず、なかでも授業料の徴収ということが住民の反発をうけ、子どもを学校へ通わさない親達が多かったのである。このような事情から施政者は学校設立に苦心しているが、『日野谷村の歴史』によると明治7年（1874）に篤志寄付によ

って人民共立学校が設立され、明治14年（1881）には公立巡回授業所ができています。寺子屋の師匠のなかにはこの教員になり、小学校が設立されてからは新しい小学校の教員になった者もいる。このようにして次第に近代的な学校制度が確立していくのであるが、その後、百数十年を経た現在、平成13年度には相生町内の4小学校は1校に統合されることになっている。

### 参考資料

内務省地理局編纂物刊行会編『地方行政区画便覧』（ゆまに書房）	明治20年
文部省蔵版『日本教育史資料』（富山房）	明治25年
相生村長 前田実男編『相生村史』（一新印刷部）	大正14年
山下待夫著『辻風土記』（水石社）	昭和10年
相生町史編纂委員会編『相生町誌』（原田印刷出版(株)）	昭和48年
森江勝久著『日野谷村の歴史』（原田印刷出版(株)）	平成7年
資料提供 相生町 森江勝久氏	



寺小屋の師匠